

わかりやすい財政白書

(令和4年度決算)



令和6年3月
小美玉市

はじめに

市民の皆様にも小美玉市の財政状況をお知らせするために、「わかりやすい財政白書」を作成しました。

市の財政状況については、これまでも法令や国の制度などに基づき様々な角度から調査・公表をしています。この白書は、これらのばらばらであった公表結果をひとつにまとめ、よりわかりやすく解説することで、市民の皆様にもっと身近に市の財政について感じていただくことを目的として作成しています。そして、小美玉市誕生からこれまでがどのような財政状況であったか一目でわかるグラフに加え、これまで積み上げてきた財産（資産）や将来へ引き継がれる負担（負債）について財務書類で解説しています。また、わかりやすさ・馴染みやすさを最優先し、一番お伝えしたいポイントに絞っておりますので、より詳しい内容につきましては、従来どおり市ウェブサイトに掲載しております「予算／決算」の各種資料をご覧ください。

本書が市民の皆様と市財政運営における現状と課題を共有しながら、今後も持続可能な健全財政を維持していく取り組みの一助となれば幸いです。

ぼく、おみたん。
僕と一緒に小美玉市の財政状況を見ていこう！



1. 小美玉市の家計簿

決算額を 5,000 分の 1 に縮小し、1 か月分を算出して、市の財政状況を家計簿に見立てました。

収入	(1月あたり)	▼前年比
給与(基本給) 市税(市民税、固定資産税など)	11万4,600円	+2,900円
給与(諸手当) 地方交付税、地方譲与税、各種交付金	12万4,200円	+900円
パート収入 諸収入、使用料・手数料、財産収入など	2万200円	△1万4,800円
親からの援助 国・県支出金	11万6,800円	△2万4,900円
ローン(借入金) 市債	1万5,400円	△2万7,900円
貯金引き出し 基金繰入金など	1万2,400円	+4,100円
前年度に残ったお金 繰越金	2万300円	+6,100円
収入合計	42万3,900円	△5万3,600円
貯金残高	202万円	+11万円

支出	(1月あたり)	▼前年比
食費 人件費	6万8,500円	+200円
光熱水費など雑費 物件費(光熱水費、消耗品費、委託料など)	5万9,100円	+4,100円
医療・介護・教育費 扶助費、補助費など	13万7,500円	△9,200円
家の改築・修繕、防災対策 投資的経費、維持補修費	3万8,900円	△3万9,400円
子どもへの仕送り 貸付金、繰出金	3万5,700円	△100円
ローンの返済 公債費(市債の返還)	4万9,200円	+8,400円
貯金 積立金	2万1,300円	△1万400円
支出合計	41万200円	△4万6,400円
ローン残高	533万円	△38万円

～解説【収入】～

給料(基本給)・・・市税(市民の皆様から市へ直接納めていただいた税金)

給料(諸手当)・・・地方交付税・各種交付金(国に納められた税金のうち市に配分されたお金)

パート収入・・・諸収入、使用料・手数料・財産収入・寄附金(保育所や放課後児童クラブに通うとき、住民票等の証明をもらうとき、市の施設を利用するときなどに負担していただくお金や土地等の売却収入、寄附金など)

親からの援助・・・国庫支出金・県支出金(国や県から使い道が決められてもらったお金)

ローン借入・・・市債(主に建設事業費に充てるため、銀行や国などから借りたお金)

貯金引き出し・・・繰入金(基金(貯金)を取り崩したお金)

前年度に残ったお金・・・繰越金(昨年度1年間の収入から支出を差し引いて残ったお金)

まずは、小美玉市の財政事情を家計に例えてみたよ。令和4年度の小美玉市の一般会計を5,000分の1に縮小すると、1か月分の収入が約42.4万円、支出が約41万円になるよ。



解説【支出】

食費・・・人件費

(議員や市長・副市長・教育長、職員(会計年度任用職員含む)などの給与、各委員会の委員報酬)

光熱水費など雑費・・・物件費

(施設の警備や点検等の民間事業者への業務の委託料、光熱水費、郵便料など)

医療・介護・教育費・・・扶助費・補助費等

(児童・障がい者・高齢者向けのサービスや生活保護が必要な方等を援助するお金や、地区敬老会や商工会、文化グループなど各種団体や市民の方が行う事業に対する助成金、ごみ処理施設や斎場などの組合へ負担するお金)

家の改築・修繕、防災対策・・・投資的経費・維持補修費

(施設や道路の修繕、学校や道路の整備(建替えや新設など))

子どもへの仕送り・・・繰出金、貸付金、投資及び出資金

(国民健康保険、介護保険などの特別会計・企業会計(別のお財布)へ出したお金や貸付事業のお金や公益団体などへの出資金)

ローンの返済・・・公債費(銀行や国から借り入れたお金の返済)

貯金・・・積立金(基金(貯金)への積み立て)

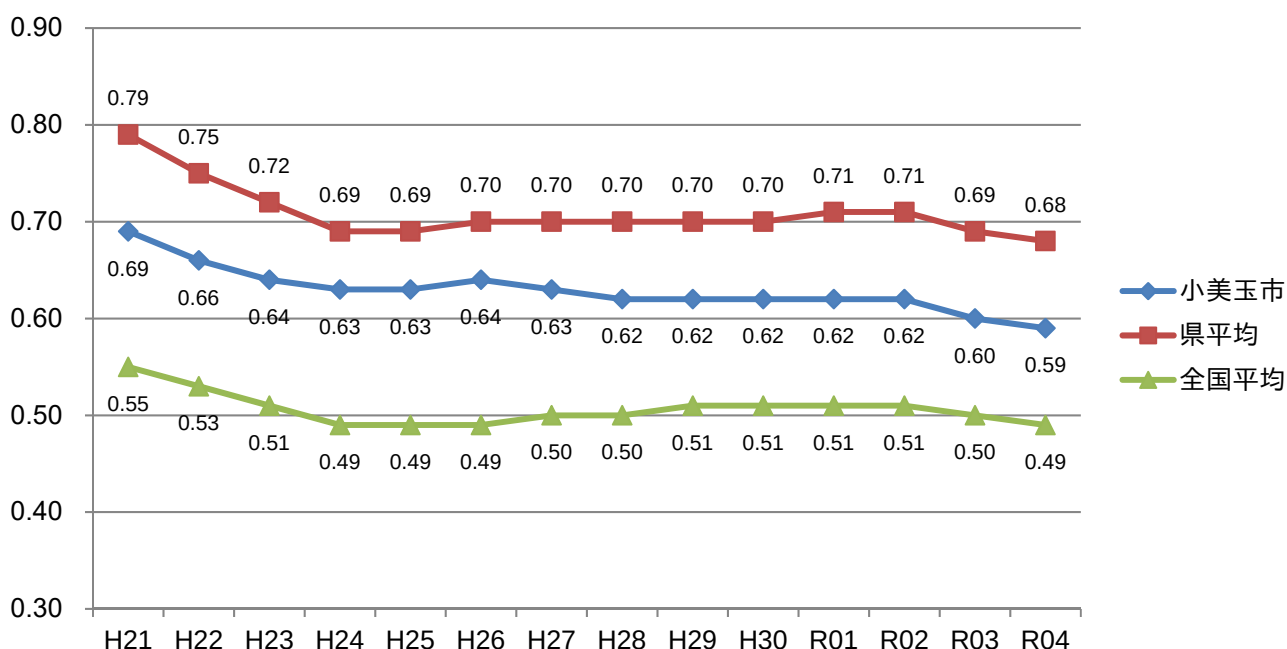
2. 小美玉市の財政指標

小美玉市の財政をいくつかの財政指標（＝全国統一の基準）でみてみましょう。

（１）財政力指数

国が示したルールに沿って、小美玉市の規模（市の面積や人口、世帯数、納税者数、道路の長さや学校の数、農家の数など多岐にわたる項目）から見込まれる収入（基準財政収入額）と支出（基準財政需要額）の割合（収入÷支出）をいいます。

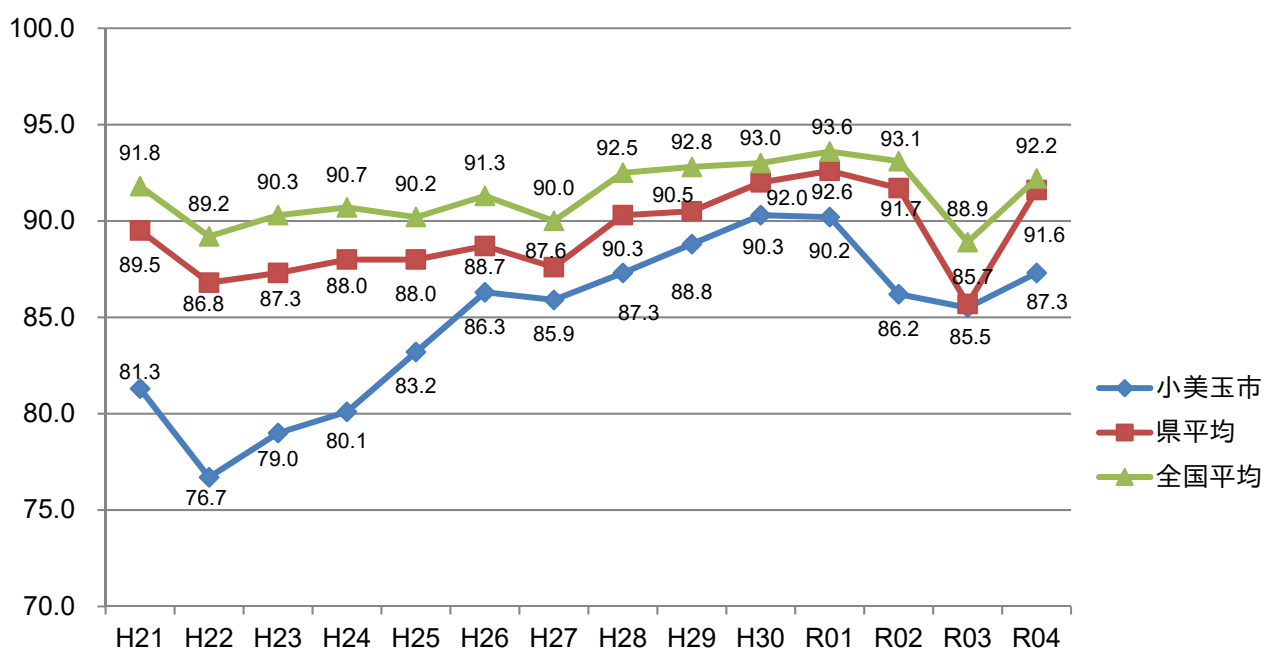
これが1に近いほど、数値が大きいほど財政に余裕があり良いとされます。また、この指数が1より小さい（＝支出が収入より大きい）場合は、その差額（不足分）が国から「普通交付税」として交付されます。



標準的な行政サービスを提供するために必要な費用に対して、市の税金などがどのくらいの割合を占めているかを表す数値だよ。小美玉市はずっと県の平均と全国平均の間だね。

(2) 経常収支比率

毎年常に入ってくるお金（市税や普通交付税など）と毎年支払わなくてはならないお金（市債の返済（公債費）や医療や福祉サービス費（扶助費）、給与等（人件費）であり、「義務的経費」といいます）を比べたもので、この比率が低いほど、臨時的な経費に使えるお金が多いことを意味し、様々な市独自のサービスができることにつながります。



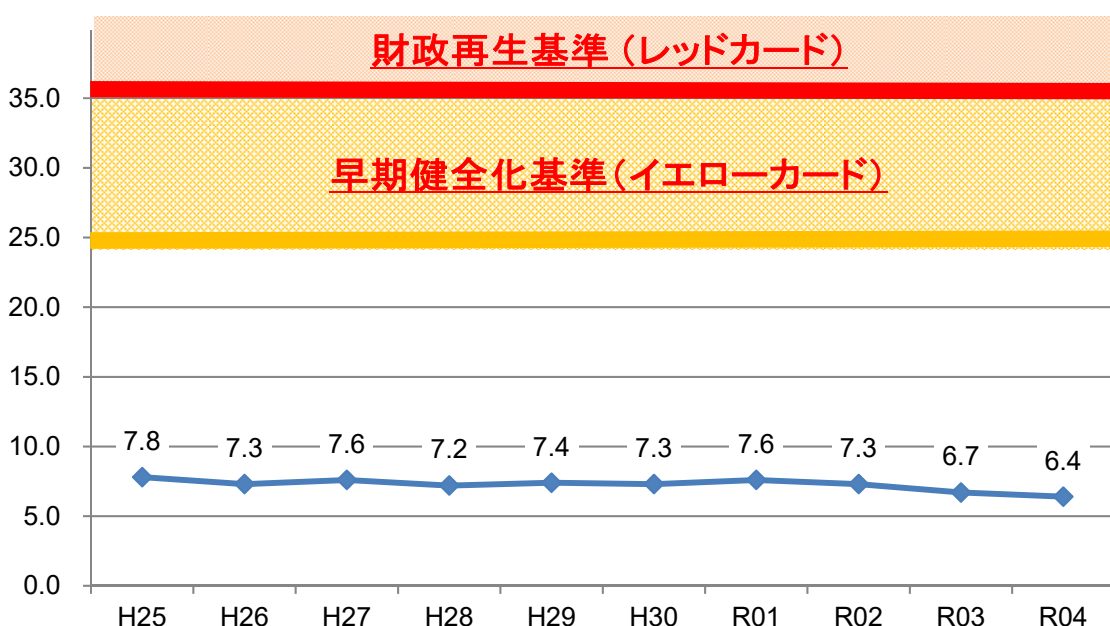
令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症により制限を受けていた事業が再開したことで、比率が上がっているね。この数字が高くなりすぎないように、お金を借り入れて行うような大規模建設事業は、計画的に取り組んでいるよ。



(3) 実質公債費比率

実質公債費比率は、市の借入金に関わる指標です。市が直接借りたお金だけでなく、間接的に借りたとみなされるもの（ごみ処理施設組合が設備更新のため借入したことに対して、市が負担金を出した場合など）も含めて、その年の返済額が、その年の使い道が自由な収入に占める割合を出し、直近の3年間で平均したものです。

25%を超えると早期健全化基準（イエローカード）、35%を超えると財政再生基準（レッドカード）に該当し、財政破綻の危機があるため県の許可なく市債の借入ができなくなったり、財政再生計画を国に提出し、財政を立て直ししたりする必要が出てきます。

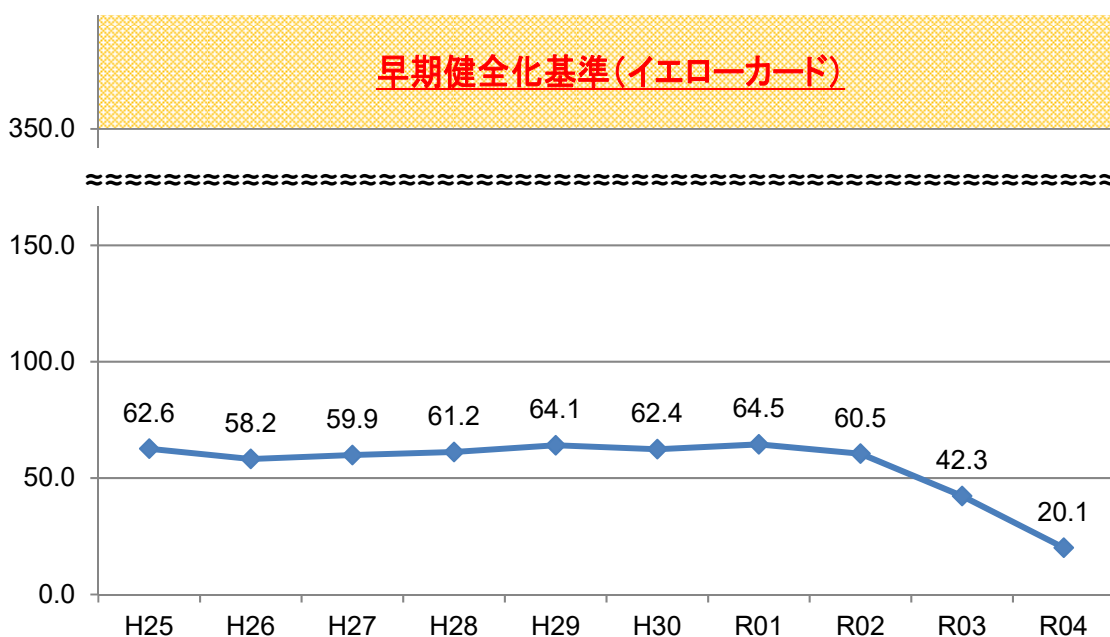


小美玉市はイエローカードになる基準（25%）よりだいぶ下回っているね。
借入金を無理なく返済しながら、同時に様々な分野で事業を実施できているということだね。

(4) 将来負担比率

将来負担比率は市の借入金をはじめとした将来に渡り支払わなくてはならない費用（負債）の総額が、1年間の収入規模の何倍になるかを示した指標です。家計に例えると、住宅ローンの残高が年収の何倍になるかを表しています。

小美玉市の場合、国が定める基準は 350%未満とされています。この基準を超えると財政健全化計画を国に提出し、事業や組織の見直し、収入の確保などより厳しい財政改善が求められます。



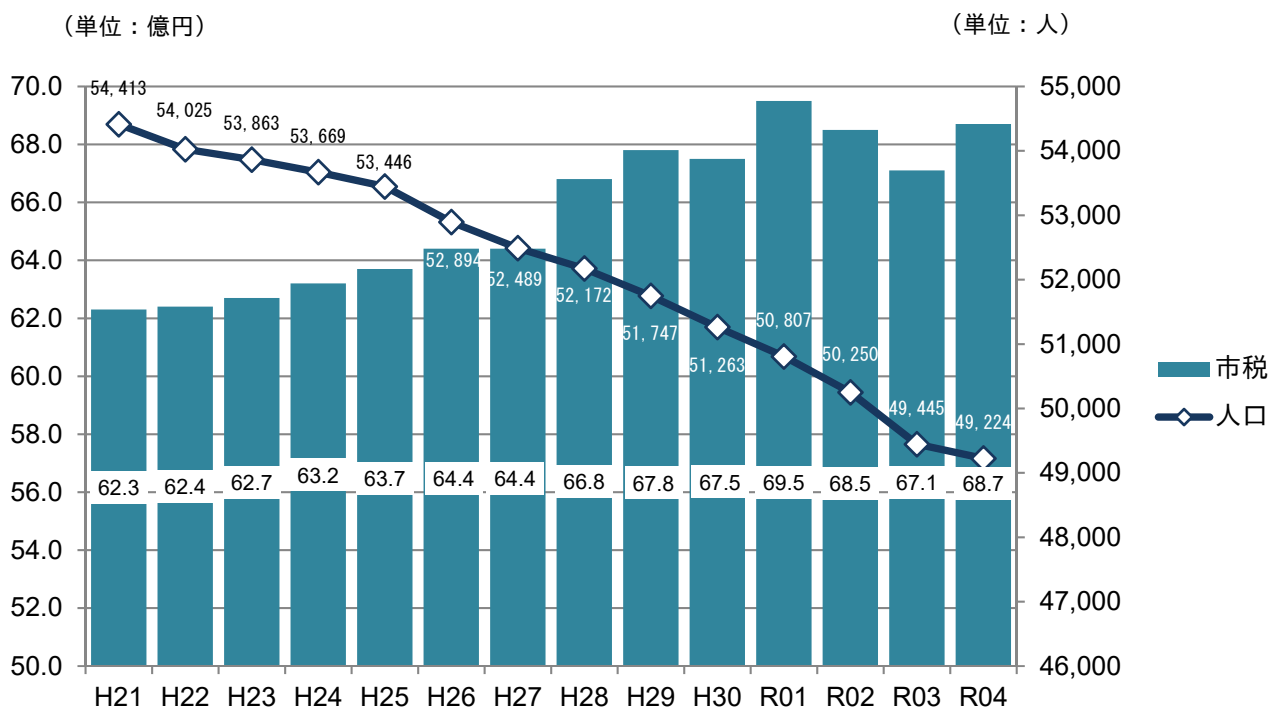
将来負担比率は、イエローカードのラインを大きく下回っていて良好な結果だね。令和4年度は、公共施設の統廃合後の整備や除却などに必要なお金を積み立てたから大きく下がったよ。これからも将来の負担が大きくならないようにしていくよ。



3. 小美玉市の財政状況

(1) 市税の推移

市の収入として一番大切な市税にはいろいろな種類があります。個人や法人の住民税、土地や建物などにかかる固定資産税、軽自動車や原付バイクなどにかかる軽自動車税やたばこ税などがあります。



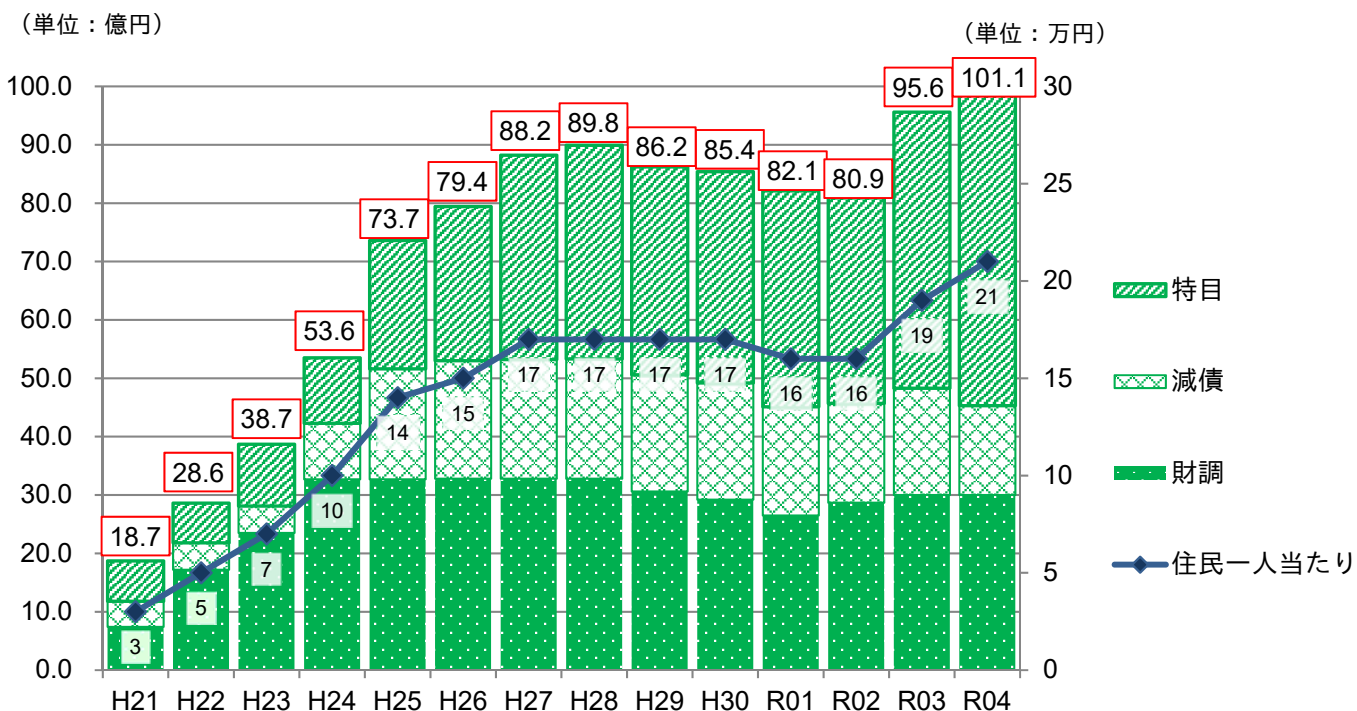
新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた市税は、固定資産税や法人税が回復したことにより、令和4年度は増加しているね。

人口は年々減少が進んでいるから、市では移住・定住促進事業などを行って人口減少に歯止めをかけようとしているよ！



(2) 基金の推移

基金とは、市の貯金のようなもので、大きく分けると3種類あります。あらかじめ使い道を決めて貯めておく「特定目的基金」。一時的な歳入不足を調整する時や、災害など緊急に必要な経費のための「財政調整基金」。そして、借入金を計画的に返済する財源とするための「減債基金」があります。



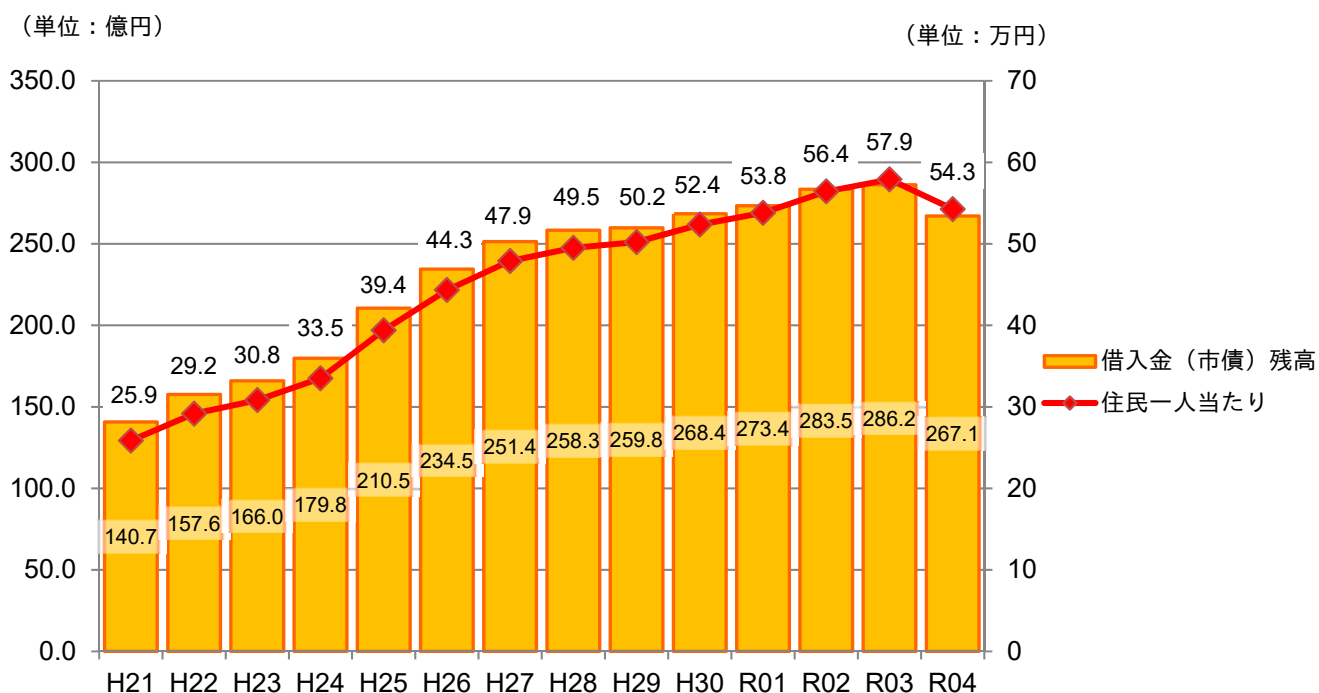
小美玉市の貯金は平成29年度から減ってきていたね。これは、道路や学校等の大きな建設事業の市債(市の借金)の返済に減債基金を使ったり、公共施設の整備に特定目的基金を使ったからだよ。令和4年度は、公共施設の統廃合後の整備や除却、空港周辺地域の活性化のためのお金を積み立てたから増えたんだ。

小美玉市も人口が減っているし、歳入の増加は見込めないけど、必要な経費は増えそうだから、貯金を使うことが増えそうだね。



(3) 借入金残高の推移

市が実施する学校建設や幹線道路の整備など大規模な建設事業を実施しようとした場合、一時的に多額のお金が必要になります。これを全てその年に入る税金などでまかなおうとすると、ほかの事業ができなくなってしまう。また、学校や道路等は将来の世代も長く使っていくものなので、建設事業に関しては県から同意を得て、国や銀行等からお金を借りることが認められています。



平成 29 年度には、住民一人当たりの借金が 50 万円を超えたね。

令和 4 年度は、統廃合により廃校になった学校分の借入残高を繰上償還したことにより一時的に減少しているよ。

ぼくら次の世代も負担が大きくならないように計画的に残高の整理をしていかないとね。

(4) 義務的経費の推移

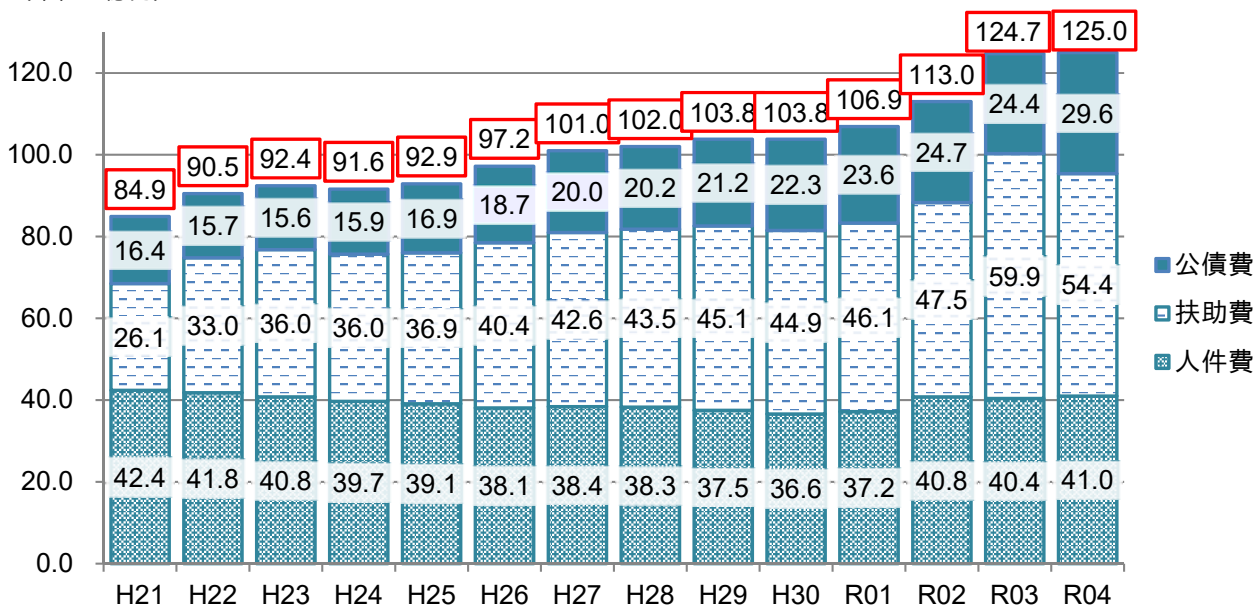
義務的経費とは、いろいろな福祉や医療に関する費用や借入金の返済、議員報酬や職員給与など、支払わなくてはならないお金のことです。

公債費とは、借入金の返済に要する経費を指します。令和4年度は、学校建設等の借入が増加したことにより増加しています。今後数年間は、大規模事業の進捗により増加傾向になると想定されるので、借入を抑制していく必要があります。

扶助費とは、福祉や医療に関わる費用です。国の制度改正や利用者が年々増えているため、増加が見込まれます。しかし、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策として実施していた子育て世帯や住民税非課税世帯に対する特別給付金等の事業が縮小した為、令和3年度と比較すると減少しています。

人件費については、令和4年度は、人事院勧告による若年層への給与改訂により、若干の増加がみられます。

(単位：億円)



令和3年度に子育て世帯や非課税世帯に向けた給付金事業を大規模に実施したから一時的に増加していた扶助費は、令和4年度は減少しているね。
公債費は、繰上償還を行ったことで増加しているね。
借金の返済金額は、大規模事業が終わるまでは減らなさそうだなあ。

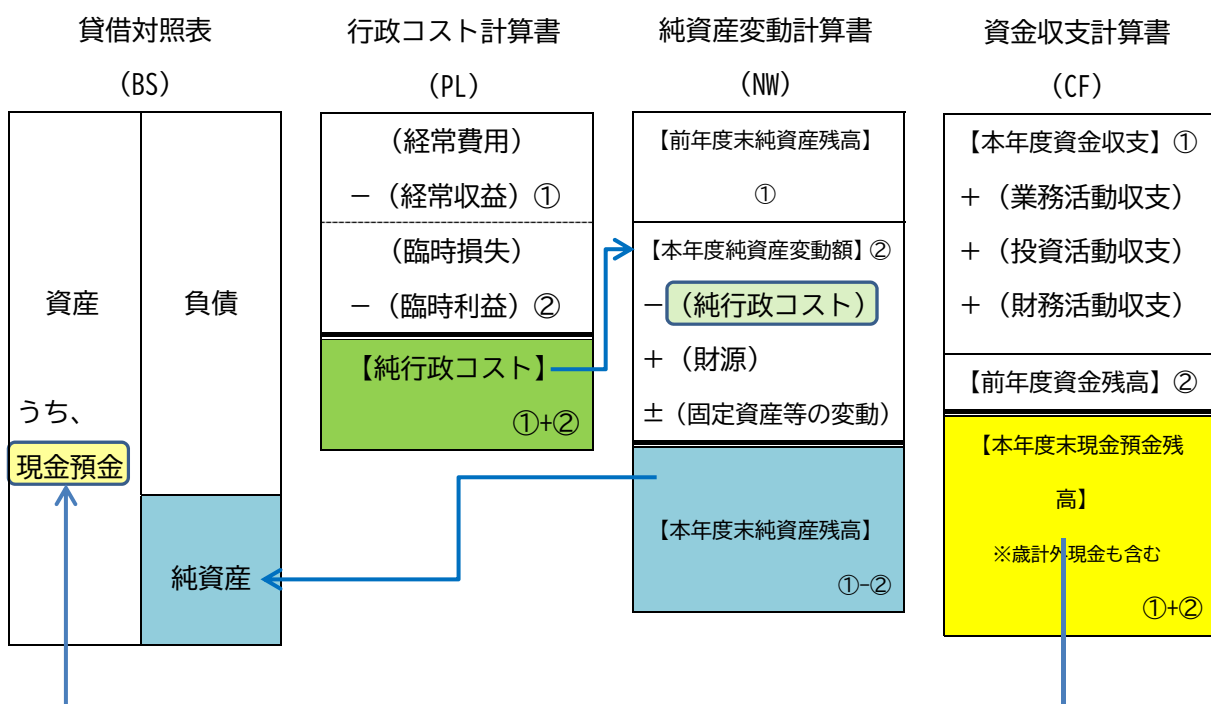


4. 小美玉市の財務書類

(1) 新地方公会計における財務書類について

自治体でも企業のように複式簿記を採用し、その年の現金の出入りだけでなく、これまでに築いてきた資産（建物・土地・道路・預金）や将来にわたり負担となる負債も把握・管理することが重要となっています。そのため、新地方公会計制度に基づいて全国統一の作成方法で、企業会計のような財務書類4表を作成しています。

【財務書類4表の関係図】



財務書類4表は矢印の部分がつながってそれぞれ関係しているよ。企業の決算書のようなだね。これからは市も企業のようにお金の出入りだけでなく、資産（財産）や負債も把握してコスト意識を高めたいかないと！‘市を経営する’感覚が大事だね！

(2) 貸借対照表 (BS : Balance Sheet)

貸借対照表とは、1年間だけの資産や負債の変動ではなく、市が積み上げてきた資産と負債及び純資産を表しています。過去の世代が形成してきた資産と将来世代が負担することとなる負債を示します。ここでは、企業でいう連結決算と同じように、小美玉市と関係のある一部事務組合等も含めた「連結」会計での決算を表示しています。

(単位：億円)

科 目	連結	科 目	連結
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	1,118	固定負債	565
公共用資産	1,045	地方債	400
事業用資産	349	退職手当引当金等	165
インフラ資産	672	流動負債	42
その他	24	1年内償還予定地方債	37
投資その他の資産	73	賞与等引当金等	6
投資及び出資金	1	負債合計	607
長期延滞債権等	2	【純資産の部】	
基金(特定目的基金)	70	固定資産等形成分	1,166
流動資産	81	余剰分(不足分)	△ 574
現金預金(期末資金残高+歳計外現金)	28	純資産合計	592
未収金等	5	負債・純資産合計	1,199
基金	48		
財政調整基金	31		
減債基金	17		
資産合計	1,199		

※記載金額は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

左側が小美玉市や関係する一部事務組合等を含めた全ての「資産」で、学校や公民館、文化センターや道路、ごみ処理施設や上下水道設備、預金(基金)などで総額1,199億円だよ。

「資産」=「負債」+「純資産」で、資産は借入金等の負債と純粋な将来負担のない部分から成り立っているよ。



右上は「負債」で、合計607億円だよ。これまで建物や道路などを作ってきたときの借金残高や職員全員分の退職金見込み額など、将来負担する予定の額になっているよ。右下は「純資産」で、592億円。資産の額から負債の額を差し引いた、純粋な資産の額だよ。大きな建設事業でお金を借りたから、純資産よりも負債が少し多くなっているね。将来の世代の負担が大きくならないようにしないといけないね。

(3) 行政コスト計算書 (P L : Profit and Loss statement)

行政コスト計算書は、職員給与や庁舎等維持管理費、社会保障給付費など資産形成につながらない行政サービスの提供に要したコストを性質別に表しています。また、減価償却費や各種引当金繰入額等を計上することで、歳入歳出決算書では見えにくい、行政サービスの費用と収益の情報を集約しています。

(単位：億円)

科 目	連結
経常費用	361
業務費用	162
人件費	47
職員給与費	42
退職手当引当金繰入額等	5
物件費	104
物件費等	62
維持補修費	5
減価償却費	38
その他の業務費用	11
支払利息	4
徴収不能引当金繰入額等	8
移転費用	199
補助金等	160
社会保障給付	39
他会計への繰出金	-
経常収益	26
使用料及び手数料	15
その他	11
純経常行政コスト	335
臨時損失 (資産除売却損等)	2
臨時利益 (資産売却益等)	0
純行政コスト	337

※記載金額は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。



行政サービスを提供するための人件費や補助金、社会保障給付などの経常費用は 335 億円。医療保険や介護保険の給付が含まれる「補助金」や生活保護扶助費などの「社会保障給付」の合計は 199 億円で、経常費用全体の約 6 割を占めているよ！経常収益（市税や医療・介護保険料はここに含まれません。）は 26 億円だったよ。純行政コストは 337 億円で、赤字のようにみえるけれど、これを市税や保険料、国県補助金でまかなっているよ。

(4) 純資産変動計算書 (NW: Net Worth statement)

純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産の部」に計上されている数値の期間中の内部変動を表しています。行政コスト計算書で計算された純行政コストを税収や国県等補助金で賄ったことを示すとともに、純資産の変動から固定資産（建設投資や貸付金、基金等）等の増減状況を把握することができます。

(単位：億円)

科 目	連結		
	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	574	1,168	△ 594
純行政コスト (△)	△ 337		△ 337
財源	353		353
税収等	208		208
国県等補助金	145		145
本年度差額	16		16
固定資産等の変動 (内部変動)		△ 2	2
有形固定資産等の増減		△ 10	10
貸付金・基金等の増減		8	△ 8
無償所管換等	0	0	
その他	2	0	2
本年度純資産変動額	18	△ 2	20
本年度末純資産残高	592	1,166	△ 574

※記載金額は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

本年度末の純資産残高は 592 億円で、前年度末の 574 億円から、この 1 年間で 18 億円増えたよ。



(5) 資金収支計算書 (CF : Cash Flow statement)

資金収支計算書は、市の1年間の現金の動きを明らかにするものです。

業務活動収支（行政サービスや税金等により毎年継続的に発生する支出と収入）、投資活動収支（投資的事業に係る臨時に発生する支出と収入）、財務活動収支（地方債の償還や発行に伴い発生する支出と収入）の3区分により表示します。

(単位：億円)

科 目	連結
【業務活動収支】	
業務支出	323
業務費用支出（人件費、物件費等、支払利息等）	124
うち、支払利息	(4)
移転費用支出（補助金、社会保障給付等）	199
業務収入（税金、国県補助金、使用料・手数料等）	369
臨時支出	1
臨時収入	0
業務活動収支【A】	45
【投資活動収支】	
投資活動支出（公共施設整備、貸付金等支出）	44
うち、基金積立	(16)
投資活動収入（国県等補助金、貸付金元金回収等収入）	18
うち、基金取崩	(8)
投資活動収支【B】	△ 26
基礎的財政収支（プライマリーバランス） 【A】 + 【B】 ※支払利息及び基金積立・基金取崩を除く	19
【財務活動収支】	
財務活動支出（地方債償還等支出）	39
財務活動収入（地方債発行等収入）	17
財務活動収支【C】	△ 22
本年度資金収支額【A】 + 【B】 + 【C】	△ 3
前年度末資金残高	30
比例連結割合変更に伴う差額	0
本年度末資金残高【D】	27
前年度末歳計外現金残高	1
本年度末歳計外現金増減額	0
本年度末歳計外現金残高	1
本年度末現金預金残高	28

※記載金額は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。



「業務活動収支」は45億円（黒字）、「投資活動収支」は26億円（赤字）で、支払利息と基金積立・基金取崩を除いて、これらを足した「基礎的財政収支（プライマリーバランス）」は19億円の黒字だったよ。このおもな要因は、大規模事業の一部が終了したことによるものだよ。

「財務活動収支」は地方債償還（返済）が地方債発行（借金）を上回ったことで22億円（赤字）だったよ。おもに地方債発行（借金）の際は、地方債償還（返済）した一部が交付税で有利に算定される合併特例債を利用しているよ。

おわりに

ここで取り上げた財政指標は、数ある指標のうちの代表的なもので、計画（予算）を立てて実行（決算）し、全国統一の「ものさし」で測った結果です。これらの結果から、おおむね市の財政状況は良好であると言えますが、地方の人口減少時代と言われる今、小美玉市も例外なくその課題に直面しています。これに向き合い、人口流出に歯止めをかけていかなければ、将来において予算すら立てることが困難となり、これまでの行政活動の規模を縮小せざるを得なくなってしまうと見られます。市では、総合計画をもとに移住促進事業や出会いから結婚、出産、子育てそして教育や就業など、このほか様々な場面でのサポート事業を展開しています。

また、医療や介護などの社会保障についても安心して受けられ、かつ、幹線道路や危険なため池の改修整備など、利便性も兼ね備えた災害に強いまちづくりにも引き続き力を入れて、生涯にわたり安心・安全に暮らしていけるまちを目指しています。

小美玉市においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減収傾向にあった市税等収入も若干の回復が見られたものの、今後の市内人口の減少による減収が見込まれます。また、社会保障費の増大や市債の償還による公債費の増など、義務的経費の増加が避けられないため、より少ないコストで最大の効果が出せる事業体系を整えていかなければなりません。今後も健全で安定した財政運営を継続していくには、市の総合計画をはじめ、各分野における計画に基づき実施した事業の結果がどうであったか、行政評価の機能をより効果のあるものとする必要があります。そして、今ある小美玉市の資産をどう活用し、発展させ、将来の世代へ引き継いでいくかは、行政だけでなく、市民の方々や企業の方々と協働で取り組んでいく課題と認識しているところです。これからも、この白書を通じて皆様方と財政状況を共有しながら、市行財政運営に取り組んでまいります。

令和6年3月 小美玉市財務部 財政課